

# 京都の福祉

発行 京都府社会福祉協議会

2008

9

No.483



## 主な記事

- 1面…もえくさ
- 2面…特集 座談会  
介護職場の人材確保を考える  
～これからの介護現場に何が必要か～
- 7面…ストップ・ザ・振り込め詐欺!!  
～京都府警からのお知らせ～
- 8面…第三者評価受診事業所の紹介  
京都福祉サービス協会西七条事務所

2面：特集「人材確保」 南丹市社会福祉協議会 認知症対応型通所施設 やぎ詩の郷の様子

## もえくさ

▼7月最終土曜日、日本海に面した府内のあるまちのこと。当方グループは早朝に出船し帰りは夕刻。この時期、駐車は畑の奥と決まり。▼今年は少々様変わり。それとわかる都会からきた子ども連れ夫婦に出会っただけ。民宿ご主人いわく、「海水浴は子どもにせがまれていくモンだ、少子化の影響です」▼そこで先ずはデータ。この地域の観光入込客数をひろってみるとここ3年毎年10万人減、うち宿泊者は毎年1〜2万人減。海水浴場利用者も毎年3万人減。なかなか厳しい。年齢を重ねると泳ぎになどいかないもの。そこで、該当世代の趣向はと「Gooのランキング」をチェック。夏の風物詩と感じるものランキング1位「すいか」2位「花火」3位「かき氷」、夏の風物詩でやってみたいランキング1位「流しそうめんを食べる」2位「浴衣を着て出かける」3位「仲間とバーベキュー」。夏は海、浜辺でという思いは潜在的心理としてはあるが、選択行動には至らないところか。こうした生活者の動向、民宿ご主人のいう人口構造の変化も確かにあり、さらに、今年はガソリンの急騰や生活関連物価の動向が拍車をかけた結果なのだ。▼「地域の活性化計画」づくりが実に多くの地域でされている。さしずめ、この海辺のまちでは第一次産業の活性化と観光産業の活性化が課題である。

「地域活性化戦略 少子高齢化時代の地域活性化検討委員会報告」(平成18年5月経済産業省)を読んだ。「立ちすくんだ地域と立ち向かった地域との地域間格差は拡大する」、「地域経済が自立へと向かうために意欲ある取組に支援」とある。残念ながら我が主要テーマについては、最終ページに「医療、介護、福祉等の効率化の推進」としかない。▼この海辺のまちの活性化のためには、地域資源や地域特性をさらに活かした産業の振興が必要なのは論を待たない。しかし、それとともに、地域コミュニティの醸成や福祉の支え合いの関係づくりが確かなものとして存在することが必要十分条件ではないか、と思う。この視点に立つ地域活性化計画は極めて少ないが、私には集落の「共同体としての機能再生」を目指す「水源の里」の取組は一つの実例と思われる。その進展に本当に期待したい。▼さて、この小稿が、みなさんの目に触れる頃は「残暑厳しい」からめくるめく「秋本番」。しかし、異常気象のきょうこのごろ、台風到来も心配。今一度各般の点検を。



本紙は、共同募金の配分金によってつられています。

# 介護職場の人材確保を考える

～これからの介護現場に何が必要なのか～



昨年8月に「福祉人材確保指針」が改訂されましたが、そこでは増大する福祉・介護サービスに対する安定的な人材確保が喫緊の課題とされています。しかし、福祉現場においては一般企業の景気回復などもあり、その確保は年々厳しくなってきています。

今号では、とりわけ厳しいとされている高齢者施設職員と介護職を目指している現役学生が一つのテーブルにつき、語り合う座談会を設定しました。「福祉の人材確保」をテーマに、それぞれの視点からこれからの魅力ある介護現場づくりについて、同志社大学准教授空閑浩人氏をコーディネーターに2時間にわたって熱い議論がなされました。

## 高齢者福祉施設での人材確保の現状

【空閑】まず、施設の人材確保の現状についてお話ししていただいた後、学生の方から就職活動のことや福祉の仕事に就きたいと思っただきつかけなどをお話ししていただきたいと思っています。



【河合】以前は募集を出したら確実に人が来てくれましたし、就職フェアでは最後の人が見えないぐらいの人が並んだこともありました。ここ近年は福祉・介護の現場は、ずっと人材難が続いていますし、様々な方法で募集をかけても人が来ません。

【上埜】以前、法人本部でヘルパー研修も開講しているので募集をかけ、折り込みチラシなどを作成しましたが、受講者が大変少ない状況で開講できませんでした。

## 学生の立場から

### ＝高齢者施設で働くことの現状と想い＝

【内藤】私の周りの友だちは、福祉職を目指す。国の財源が確実に確保されていないこと指している人がたくさんいます。でも、あとと、家庭を持ったときのことを考えると男子学生は、一般企業に決めていて「福祉は賃金の面で不安がある」と言っています。私はやりがいのある仕事だと思っています。

## コーディネーター



空閑 浩人 氏

●同志社大学社会学部准教授。社会福祉の現場で働いていた経験から、ソーシャルワークを中心とした社会福祉実践に関する研究を行っている。

## 出席者



河合 悟 氏

●社会福祉法人洛南福祉会のケアハウス サウスヴィレッジ向島施設長。また、京都市老人福祉施設協議会の総務委員長も務めている。



上埜 佳代子 氏

●社会福祉法人くらしのハーモニー(老人デイサービスセンター、介護老人保健施設などを運営)法人本部職員。法人の新卒採用や研修を担当している。



内藤 智子 氏

●佛教大学社会福祉学部社会福祉学科4回生。現在、就職活動中で自宅から通える施設を中心に施設見学を行っている。



浜田 靖代 氏

●大谷大学文学部社会学科4回生。一般企業に対する就職活動もしていたが、福祉職を志望しており、これから福祉職場の就職活動をはじめようとしている。

参考資料 介護労働者の確保・定着等に関する研究会【中間取りまとめ】概要より  
平成20年7月29日 厚生労働省職業安定局

## 対策の方向性について

### 介護労働者が意欲と誇りを持って働くことができる社会の実現

#### 基本的な考え方

介護労働者の需要拡大に伴い、質の高い人材を安定的に確保及び定着・育成させるために、介護分野における人手不足や離職率を改善し、安定的に人材を確保及び育成する仕組の構築が重要。

#### 介護報酬の考え方

介護労働については現状の賃金等の労働条件に様々な課題があり、今後の介護報酬の改定に際しては、如何にして安定的に人材を確保し、専門職として処遇し、その能力を高めていくかという観点を考慮して、検討がなされることを望みたい。

#### 介護労働者の定着・育成に向けた雇用管理改善

- 雇用管理の必要性・重要性
- 処遇改善とキャリア管理の促進
- 安心・安全・働きやすい労働環境の整備

#### 介護労働者の確保及びマッチング等

- 教育機関・養成施設等との連携による人材確保
- 潜在的有資格者の掘り起こし
- 多様な人材の参入・参画
- ハローワークを通じた福祉人材確保機能の強化
- 社会的評価の向上

【浜田】一般企業を希望している周りの多くは、3回生の1月ごろに就職活動を始め、早く内定が出ます。同じゼミは18人いますが、そのなかで福祉に進もうと思っているのは2人だけ。友だちの話や聞くと、親に反対されて説得しきれなかった人もいます。正直なところ私の親も反対していて、今後どう説得していくかという課題があります。昨年の実習で利用者から施設の状態を聞くことができ、まだまだサービスが行き届いていないところがあることを知りました。「自分自身そういう状況を変えていくことができるんじゃないか」という思いがあって、今は福祉施設で働きたいと思っています。

【空閑】実習を通じて、「ちょっと違うかな。でも私がこれを変えていけたら」と思う学生もいるということは、逆にいえば、福祉はつくっていい仕事でもあるわけですね。もちろん、賃金などの問題はありますし、善意ややりがいに頼るような職場は長く続かないと思いますが、その一方で、その魅力をきちんと伝えていかなければ

ばと思います。

【上埜】福祉は本当につくっていい仕事なので、やりがいのある仕事ではないかと思うんです。でも、賃金の面で厳しい部分も確かにあると思うので、その男子学生の気持ちはわからないでもありません。なんとかならないのかなと思います。

【空閑】いまの2人の話にもあったように、学生は「将来を考えると」ということがあるんですね。決して「福祉は嫌だ」ということではなく、将来の展望から周りの人に



【空閑】続けられる職場というか、辞めない職場づくりとして施設での取り組みは何かありますか？

【上埜】現場も、「人がいない。来てほしい」と言うだけでなく、辞めないシステムをつくらないといけないと思います。せっかくこの業界で働こうと思って、集まって来た人たちなので、辞めないうちに変えないといけないのではないのでしょうか。例えば、自分のしんどい思いを話せる仲間がいたり、いわば自己覚知の面でフォロワーアップが大切だと思います。対人援助の仕事では、技術よりも対人援助の疲労が蓄積されていく時期があるので、それを解消できるような何かがあればいいなと考えています。

【河合】私は、一法人だけで人を育てたり、職員を支えたりするのは、難しい時代なのかなと思っています。例えば、施設間の横のつながりを持てる場や仕組みを考えることか、キツイと言われることに対して、「福祉職場のやりがい」をもっと知ってもらわないとだめなんじゃないかと思っています。

## 職員がやめないうシステムづくり ＝タテのつながり・フロアのつながり＝



【空閑】勝手なイメージが先行しているのかもしれないですね。また、たまたま実習に行った現場で、あまりよくしてもらえなかったので拡大解釈してしまっているのかなとも思います。

【空閑】私も以前、一般企業でも働いていましたが、やはりそこでは競争で、お互いがライバルで、非常にしんどい状況でした。しかし、福祉施設での仕事は、チームワークや連携が大切で、一人でできないことも

とが大事だと思います。

### (参考資料) 介護労働者の確保・定着等に関する研究会【中間取りまとめ】 平成20年7月29日 厚生労働省職業安定局

#### 離職の状況

- 介護職員の離職率は、全産業と比較して正社員において高い。
- 職員の定着率が低いと回答している事業所は、訪問系より訪問系Yよりも施設(入所)系事業所の方が多い。

#### (1) 離職率

	全体	正社員	非正社員
全産業平均	16.2%	13.1%	26.3%
介護職員	21.6%	20.4%	32.7%
訪問介護員		18.2%	16.6%

資料出所：全産業は厚生労働省「雇用動向調査結果(平成18年度)」、  
介護職員及び訪問介護員は(財)介護労働安定センター「介護労働実態調査(平成19年度)」

#### (2) 従業員の定着状況

	定着率が低くて困っている	定着率は低いが特に困っていない	定着率は低くない
訪問系	19.3%	5.2%	69.1%
施設(入所)系	34.0%	9.4%	55.1%

資料出所：(財)介護労働安定センター「介護労働実態調査(平成19年度)」

んなとならでできる。仲間と一緒にひとりの利用者のことを一生懸命に考える。ひとりの人のことを思う仲間の一員であること、喜びも、福祉の仕事の魅力だと思ふことです。

【河合】私の施設では最低年2回、直属の上司が一人ひとりの職員と面談します。たしかに厳しいことを面談で言われるかもしれないませんが、きちんと向き合って話を聴いてもらう仕組みは大事なのかなと思います。

【上埜】そうですね。飲みニケーションで、とても大事なことがなと思っています。

【空閑】上司にしっかりと聴いてもらえるというのは、とても大事だと思います。特に若い職員にとっては、「ちゃんと自分たちのことを見てくれている」ということは、福祉の現場に限らず、仕事を続けていくうえで、とても大事なことがなと思っています。

# 実習における社会福祉施設と学校のあり方

## ＝人材育成の観点から＝

【空閑】それでは次に学生の進路選択において重要な体験学習となる実習について話したいと思います。私の学校（同志社大学）の例では、まずお年寄りとするべく親しくなれた」などということが、実習の満足度を上げる大きな要因となりますが、それ以上に職員と話ができたという体験は大きいようです。つまり、「この職員のようになりたい」「私も将来、こういう仕事をやってみたい」と思った学生は、福祉の仕事を選択肢のひとつとして選ぶことにもつながっているように思いますが、いかがですか。

【内藤】実習では、主に相談員と一緒に行動することができて、十分にコミュニケーションがとれました。その人は子どもさんが3人いる方でしたが、「福祉職場はきつい部分もあるけど、まあ、いけるで」とい

う感じに言ってもらったので、決して無理ではないと思うし、賃金云々で福祉を諦めるのはもったいないということを学びました。

また、認知症の利用者と話す機会があり、頭を叩かれたり、すごく戸惑ったこともありましたが、毎日接する中で、その利用者が笑ってくれるようになり、実習最終日には手を振って見送ってくれたり、言葉では説明できない気持ちになりました。

【浜田】学生は、実習指導の職員によってかなり変わると思いますが。実習の間、施設の職員ともっと話を詳しく聴けて仲良くなれたら、更に働くことのイメージが湧いてよかったです。

【空閑】後継者の育成や人材確保という意味で言えば、施設にとって実習生をどう受け入れるかということがとても大事だと思います。その点で、施設側としてはいかがですか。

【河合】学校は、実習の受け入れを感謝することも大切ですが、学生が実習についてどう思ったのかということ施設に返して欲しい。学生が困っていることについて、施設と突き合わせて相談しないと、いつまで経ってもミスマッチになってしまっていると思います。これができることが本当の実習懇談会ではないかと思えますね。そして、それをいかに活かすかが今後の人材確保の最大のポイントになると思っています。

【空閑】学校と施設との関係をきちんと

くらないといけないと思います。学生に対して私が事前学習で伝えるのは、「講義では、どうしても良い面を語ることが多いので、もしかしたら実習先には違う現実があるかもしれない。でも、そこをしっかりと見てください。その後どうするかを、実習が

## 福祉はしゅりあげていける仕事

【空閑】ここまでいろいろな話をしていただきました。具体的な形としては、すぐに答えは出ませんが、学生たちに福祉の仕事をめざしてほしいということや、福祉の仕事の魅力を言葉にして共有していかねればいけないという話ができたとと思います。

最後に、感想も含めていかがですか。

【内藤】「自分が働きたい理想の職場」を漠然と探していくのではなく、「そこに入ってどう働きたいか、何をしたいのか」などを具体的に考えながら「自分が入って変えてやる!!」ぐらいの勢いで、やりがいに重点を置き、これからも施設見学を続けていきたいと思っています。

本日はとても勉強になりました。ありがとうございました。

【浜田】一般企業では既に形になったマニュアルに沿って働く職場も多いと思いますが、福祉の職場では、これからよりよい方向へ動かせる力を新人である自分も持っているんだなと思いました。福祉職は一般企業に比べて、自分で一歩踏み出すとか、自分から変えていける環境があるのではないかと思います。

【上埜】私も10数年前に、親の反対を振り

終わったら一緒に考えていこう」ということで、福祉というのは、その「どうしたらいいのか」ということを形にできる仕事なんですね。実習を媒介にして、いろいろな意味で学校と現場がつながっていったらいいなと思います。



払って、この業界に飛び込みました。数年後、親から「やってよかったですね」と言われたのを覚えています。ただ、楽しいことばかりではありませんでしたが、つらいなかでも長く続けていたから、以前援助していた利用者にも数年ぶりに会って、「在宅でそのまま頑張ってます」という話を聞いたりして、「ああ、よかったなあ。5年後、10年後にその成果がわかる仕事なんだなあ」と思いました。

それと、この仕事は人と人が向かい合うので、つぶれそうになったときに、自分ひ



とりで超えてきたのではなく、周りの職場の先輩、上司、家族、関係機関の人たちにものごく支えられて続けてきたなという思いがあります。ですから、福祉は仲間と一緒につくっていただける仕事です。私も、逆に若い人たちを支えられる存在になれるように頑張っていきたいと思いました。

【河合】私が出たことは2つあります。

1つは、介護は市民にとって本当に必要で大切なサービスだから削らしたり減らしたりするものではないことをまず私たちがアピールすることを忘れてはいけないということです。2つ目は、学生さんたちが言ってくれたように、われわれと一緒に「どの施設に入っても、どのサービスを受けてもみんなが満足できる」ように変えられる歴史をつくっていききたいと思います。本当に今日は勇気をもたらした気がします。現場だけでなく、学校、行政、関係機関やマスコミなどと協力しあうことで、利用者によりよいサービスを提供できるよう職員にとつてより働きやすい職場へ私は変わることができると信じています。

【空閑】皆さんと5年後にもう一度同じテーマで話したいですね。現在、福祉は大変な状況ですが、だからこそこのような座談会を持つことになり、改めて学校や施設等と一緒に福祉を盛り上げていくことが必要だと感じました。様々な選択肢の中で福祉分野を選ぶ学生たちが増えればいいなというのを期待します。

本日は本当にいい機会になりました。どうもありがとうございました。

## 追記

座談会の終了後、河合さんが、「今日の座談会では介護報酬のことにはふれなかったけれど、介護報酬の改定で施設経営は本当に厳しくなってきた」とまた、上埜さんからも、「度重なる介護報酬の改定で、築き上げてきたものがその都度崩れてしまった」と話されていました。

平成18年7月7日の経済財政運営と構造改革に関する基本方針で示された「雇用、生活保護、介護、医療などにおける過去5年間の改革（国の一般会計予算ベースで▲1兆円の伸びの抑制）を踏まえ今後5年間においても改革を継続する」という考え方は現在でも続行されています。

一方、「介護従事者処遇改善法」が本年5月21日に成立し、介護現場の人手不足の解消に向け、平成21年4月までに介護労働者の賃金引き上げなどの処遇改善策を検討し、必要な措置を講じると定めています。

また、厚生労働省においては、「介護労働者の確保・定着等に関する研究会」が、介護労働者の現状と課題、今後の介護労働対策の方向性などについて、7月29日に中間報告を発表しています。

京都府においても「介護・福祉サービス人材確保プラン検討会」を6月18日に立ち上げ、京都府独自の対策が検討されているところで、この問題については、引き続き考えていくことが必要です。

(人材・施設支援課)

社会福祉施設  
総合損害補償

# しせつの損害補償

ホームページでも内容を紹介しています。  
<http://www.fukushihoken.co.jp>

社会福祉施設のさまざまなリスクに対応するために！

### プラン1

#### 施設の業務中事故賠償補償

- ①基本補償
  - 基本補償(A)は、法人業務を包括的に補償
  - 見舞費用付補償(B)は、賠償責任のない場合の見舞金も補償
  - オプション・医療事故補償も充実
- ②個人情報漏えい対応補償
  - 個人情報漏えいによる法律上の賠償責任を負った場合(おそれのある場合を含む)に補償
  - クレーム対応費用、見舞品購入費用等を補償

### プラン2

#### 施設利用者の傷害事故補償

- ①入所型施設利用者
- ②通所型施設利用者
- ③不特定多数利用者

### プラン3

#### 施設送迎車搭乗中の 傷害事故補償

- 施設送迎車に搭乗中の傷害補償
- 施設の過失の有無は不問

### プラン4

#### 施設職員の災害事故補償

- ①施設の労災上乗せ補償
- ②施設職員の傷害事故補償
- ③施設職員の感染症罹患事故補償

### プラン5

#### 施設の什器・備品 損害補償

- 施設内の什器・備品を幅広い範囲で補償
- 施設の現金等も補償

◆加入対象は、社会福祉法人等で運営している社会福祉施設です。

- 全国社会福祉協議会のスケールメリットを活かし、充実した補償内容
- 団体契約のため有利な補償と割安な保険料(掛金)
- 迅速で丁寧かつ適正なお支払い

●この保険は全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約(「賠償責任保険」「傷害保険」「労働災害総合保険」「約定履行費用保険」「助産総合保険」)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記をお願いします

団体  
契約者

社会福祉法人  
**全国社会福祉協議会**

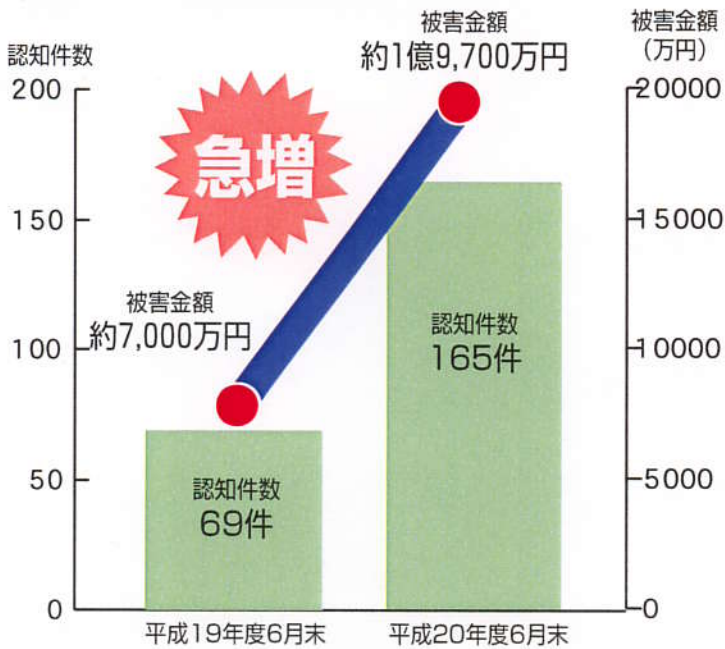
取扱  
代理店

株式会社 **福祉保険サービス**  
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F  
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763

(引受幹事保険会社) 株式会社 損害保険ジャパン

# 京都府警察本部からのお知らせ

## 振り込み詐欺被害の状況(京都)



### 振り込み詐欺被害防止の合い言葉



すぐに  
振り込まない  
一人で  
振り込まない

#### 振り込み詐欺には、次のような手口があります

- オレオレ詐欺  
身内や弁護士などを装い示談金や保証金名目で振り込ませます。
- 架空請求詐欺  
電話などで身に覚えのないアダルトサイトなどの利用料を要求し、振り込ませます。
- 融資保証金詐欺  
電話やはがき、ファックスで資金融資を勧誘し、実際は融資しないのに保証金などの名目で振り込ませます。
- 還付金等詐欺  
官公庁職員を装い税金・年金などの還付金があると偽って、その手続きなどの名目でATMを操作させてお金を騙し取ります。

今年6月末現在、京都府内の振り込み詐欺被害の認知件数は165件、被害金額は約1億9,700万円にのぼり、前年同期を大きく上回っています。手口(口実)もますます複雑、巧妙化しています。特に増えているのが「還付金等詐欺」です。官公庁の職員が、ATMを操作させて、税金などの還付

手続きをすることは絶対にありません。1人でも多くの方が被害に遭わずにすむよう、家族や地域の皆さんたちと「振り込み詐欺」の話題を取り上げるなどして普段から騙されない心構えをお願いします。

**ストップ・ザ・振り込み詐欺!!**  
振り込み詐欺被害が急増しています!

## 許しまへん 振り込み詐欺



# 第三者評価受診事業所の紹介～利用者のためのサービス提供に向けて～ あなたも第三者評価を受診しませんか？

京都福祉サービス協会西七条事務所からの報告

## 第三者評価の受診のきっかけと取り組みの経過、効果

### ■受診のきっかけ

第三者評価事業の継続受診を居宅部門全体（当事務所以外に他7事務所）の取り組みとして位置づけ、年間の事業方針に掲げています。試行実施の段階から継続して参加していますが、単年度の受診だけでは、取り組みの成果や効果も単発になってしまいう可能性があるからです。

### ■受診の取組

受診費用に見合う効果を得るために、指摘を受けた事項について「どのような形で実践できるか」を迅速に検討することが重要です。アドバイスレポートは、事務所内部の取り組みでは見過ごしてしまいがちな部分に対して、客観的な視点からアドバイスを受けるので、さらなるサービスの質の向上につながる可能性があります。

また、評価機関は毎年異なる団体に依頼し、いろいろな角度から意見をいただくよう調整しています。



事業所名 社会福祉法人  
京都福祉サービス協会西七条事務所  
〒600-8888 京都市下京区西七条八幡町2-9  
TEL 075-315-7277 FAX 075-315-7250  
ホームページアドレス <http://kyoto-fukushi.org/>  
評価を受けた種別 居宅介護支援・訪問介護  
評価機関 社団法人京都社会福祉士会



評価を受けた種別  
評価機関

制度自体の希望をいえば、受診からアドバイスレポート到着まで、時間がかかっている。今以上に早くいただけると取り組みの再検討につながるやすいのではないかと考えています。

法令上、義務付けられたサービスの質の向上に対する取り組みを具体化する中で、事業運営の透明性を確保し、ご利用者から信頼と安心を得ることにつながり、当事務所の評価を高められると考えています。

### ■西七条事業所では

「くらしに笑顔と安心を」を法人理念として、当事務所では、訪問介護と居宅介護支援の在宅事業を柱に事業を展開しています（特別養護老人ホームなどの施設部門併設）。より地域に根ざした総合福祉の実現のために、例えば学校教育現場での「福祉授業」やPTAを対象とした「介護教室」を実施、また「企業」や「会社」への車いす体験実習などの企画を検討しており、声をかけてくだされば出張いたします。



介護実技の練習風景

介護・福祉サービス 受診申し込み受付中！ 詳しくはこちらをどうぞ！ 第三者評価サイト <http://www.kyoto-hyoka.net>

## 京都の福祉

毎月1日発行  
昭和36年7月26日 第3種郵便物認可

発行所 京都府社会福祉協議会  
発行人 森 育 寿

〒604-0874 京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375  
TEL 075-252-6291 FAX 075-252-6310  
URL <http://www.kyoshakyo.or.jp>



「京都の福祉」へのご意見、感想、とりあげてほしいテーマなどお寄せください。表紙の写真も募集しています。

本会へのご意見等は、右記URLの「お問合せフォーム」を通じてお寄せください。